

雅楽だより

《目次》

- 舞楽回想 大窪永夫 1
- 雅楽いろいろQ & A ⑨ 芝 祐靖 3
- 古楽譜・古楽書でたどる雅楽の歴史16 『體源鈔』とその時代 8 遠藤 徹 3
- ベトナムの雅楽 フエを訪ねて 4

- ピリを吹いて60年 鄭在國氏インタビュー 6
- 小野功龍著『仏教と雅楽』 大谷紀美子 8
- 情報欄 10

第37号
発行

2014(平成26)年4月
雅楽協議会

舞楽回想

宮内庁式部職楽部首席楽長

大窪 永夫

〔宮内庁式部職楽部の2月22日(土) 国立劇場大劇場での「舞楽」(演目・甘州、還城楽、胡飲酒、陪臚)公演プログラムより〕

十二歳で雅楽の道に入り今年で五十三年という歳月を過ごして参りましたが、雅楽の中でも舞楽は最も華麗で、曲によっては絢爛で勇壮、また、迫力もあり、分かり易い分野ではないかと思えます。本日の演目もまさにその様な表現に合ったものを並べてみました。

舞楽曲の解説といってもあまり沢山のものはないのですが、おおよそ昔から伝わっている事をまとめてみました。そしてこの度は、私の舞の師であります故東儀信太郎先生の残された「舞楽曲の作法」から曲の組み立て、装束、舞具などを書かせていただきました。本日は四演目ですから、時間的な事もあり、一部略して上演します事をご了承ください。

一曲目の「甘州」は左方の平舞で、前述しました華麗な舞ではないかと思えます。特徴的な手として、種子播手という両手を二回続けて播き寄せる手があります。曲の後半に出てくる動きの速い手となっています。私は左方の舞を担当しておりますが、四人の舞は合わせるのがとても難しいのではないですか？と良く聞かれます。確かに易しくはないので

すが、四人がぴったり揃っていれば良いかというところ、そうでもない様です。舞の修行中に先生から教えられて今も覚えているのは「手や足が五センチ七センチずれる事を気にするより、全体の流れが良く、装束を着けた時に袖の翻りが綺麗で足の運びが流暢な事が大事だよ」と言われた事、また「指先が遠くを指す様に大きく舞う事」、「見てない方の目がある様に」と「落居(両足を開いて腰を落とす)をする時に下を見ない!!」といった注意です。先生は「下に何も落ちていないだろ

う」とやさしく言ってくれた事が思い出されますが、どれも未だに難しく、舞う度にいつも忘れぬ様に心掛けています。



中啓に載った蛇(右舞)

「還城楽」は左方と右方両方にありますが、圧倒的に右方が多く上演されます。やはり、八多良拍子という二拍と三拍のリズムが、二拍と四拍よりも快活で良くまとまっている事がその要因だと思えます。また、両曲とも物語性がありますが、「還城楽」はより特徴的です。乱序が始まり、出手を舞っている時に蛇持が中啓(扇)に蛇を載せて登場し、舞台



甘州を舞う大窪永夫首席楽長 2008年2月2日
浅草公会堂 写真提供 林陽一

のほぼ中央に蛇を置きます。それを見つけて近寄り喜ぶ様を鹿麩という三ノ鼓、太鼓、鉦鼓の拍子に合せて激しい動きで二度舞い、出手の最後に蛇を捕まえて乱序を終わります。そして当曲に入りませんが、全曲を通して独特の足使いも面白く、見どころの多い舞となっています。

『胡飲酒』は、酒に酔った様を舞にしたと言われ、破の七帖目にある、その様子を表す特徴的な舞の手が面白く、舞人の表現の仕方が問われる手であります。私も何度か舞わせてもらいましたが、その度に新しい発見があり、舞というのは常に生きているものなのだという事を実感した次第です。

この舞のもう一つの特徴は、右手に持った桴を度々左手、右手と持ち替える事です。普通は桴など、舞具は右手に持ちますが、『胡飲酒』の様に持ち替える舞は他にはないと思います。舞人としては気を使うところです。



還城楽 左舞用蛇



還城楽(左舞) 『舞楽図』より



胡飲酒 『舞楽図』より



ほとんどの舞楽で履く糸鞋



胡飲酒の舞人が履く烏皮沓

また、もう一つの特徴は烏皮沓を履く事です。ほとんどの舞楽では、糸鞋という絹糸で編み、底に皮を張った履物を使うため、足の感触がこれに慣れていきます。『胡飲酒』を舞う時は、事前に烏皮沓を履いて慣れておく必要があるのです。糸鞋の様にしっかりと紐で足に縛れると安心なのですが、烏皮沓は現代的に言うところのショートブーツの様なもので、

足をすっぽり入れて履くだけです。沓にうまく足を合わせる様にしなければなりません。少し大きめの違う二、三足の中から、自分に合った沓を選びます。

さて最後の演目は『陪臚』です。右方の四人舞ですが『甘州』とは違い武舞で、絢爛、勇壮な舞です。装束も補襠装束となっていますが、『還城楽』『胡飲酒』がともに毛縁の補襠なのに対して『陪臚』は金襴縁なので華やかさも増しています。また、舞具も桶、鉦、太刀とあり、舞台全面を使って、勇壮に舞います。『陪臚』に匹敵する左方の四人舞は、『太平楽』です。当曲では、桶と鉦を舞台に置き、途中で太刀を抜き、桶と鉦の間を舞人が行き交うところが大きな見どころです。

当曲は破と急の二部構成になっていますが、破が平調の陪臚(八多良拍子)、急が老越調の新羅陵王急を用いるため、間に音取を奏し急に入ります。ここでは舞いながらまず鉦を取り、そして左手に桶を取り、四人が舞台狭しと舞います。最後に舞台中央に一列に並び、四人が同じ手を舞いながら一人ずつ舞台を降りて終わるといふ、最後まで目の離せない素晴らしい舞いです。

さて、「左方の舞」と「右方の舞」、この左舞と右舞には決定的な違いがあるため、私達は両方を教わりません。どちらか一つに限られます。一番大きな違いは、その姿勢にあります。両手を開いて伸ばした時、左舞は肩より少し高く、指先が耳の辺りに位置する様に開きますが、右舞の場合は肩の位置より高く



陪臚 『舞楽図』より

してはいけません。そして歩く時も左舞は必ず左足から、右舞は右足から歩き始めます。もちろん階段を登る時も舞台に登場する時もです。そしてひざまずく時も、左舞は右足を引き左膝を立て、右舞は左足を引き右膝を立てます。回る時も左舞は左回り、右舞は右回りです。この様なところにも注目していただけると面白いと思います。

以上、解説になったかどうか分かりませんが、現場で経験してきた事を少し取り入れて分かり易くお話ししたつもりです。拙い文章ですが、少しでも多くの皆様はこの度の舞楽公演を楽しみ、面白く、魅力のあるものとして心に残していただければ、雅楽を伝えていく者として大変嬉しく思います。

☆編集部注・「出手」を左舞では「でてる」と呼び、右舞では「ずるて」と呼びます。

(写真 還城楽の蛇、烏皮沓、糸鞋は『宮内庁楽部 雅楽の正統』扶桑社刊より)

雅楽いろいろQ&A⑨

只拍子の吹き方

芝 祐靖

Q19

只拍子がどうしても苦手です。主管になったとき、そのリズム音痴というか、間の悪さに先生からいつも注意されます。何かコツはないでしょうか？

A19

私自身も只拍子曲の音頭に当たったとき、不安感に襲われたことを覚えています。只拍子は2拍+4拍ですが、最初の2拍の長さが不安なのです。

雅楽曲には、7つの只拍子曲があります。

平調の陪臚、双調の柳花苑、黄鐘調の西王楽破、盤涉調の蘇莫者破、太食調の還城楽、抜頭、輪鼓禪脱です。

それぞれの音頭の旋律を比べてみましょう。

陪臚、蘇莫者破、抜頭、輪鼓禪脱は一小節目に旋律の変化がありますが、柳花苑、西王楽破、還城楽は同じ音の「引」です。7曲とも同じ「早只拍子」ですので、テンポはほぼ同じ筈なのですが、楽曲によって吹奏が異なります。

大変やっかいですね。7曲の音頭を全て記すべきですが、陪臚と還城楽についてのみでお許しください。

陪臚の冒頭は

1 2 3 4
1 2 3 4
「チャ トロラ チイラ ア・」

と吹奏すべきところを

1 2 3 4

「チャ トロラ」

と吹く人が多くいます。その結果リズム感を失って「チラア・」の処置が出来なくなってしまう。

☆《1拍目裏のヤに力をいれず

軽く吹くこと》

還城楽の場合は

1 2 1 2 3 4
「タア ハア 引・」

ですが、ターと吹きだした直後に、ハを叩くタイミングを失ってしまいます。2拍目のアに軽くアクセントを付けるか、頭の中で2拍目をしっかりカウントしましょう。

還城楽の音頭の場合は、4小節を一息で吹きますので、息の配分とアクセントの置き方を訓練しましょう。

陪臚をはじめ、蘇莫者破、抜頭、輪鼓禪脱は、十分に唱歌を歌って吹奏時に脳裏で唱歌を歌いながら、運指しましょう。

柳花苑、西王楽破、還城楽は唱歌時に、息の配分を覚えましょう。

古楽譜・古楽書でたどる

雅楽の歴史(16)

『體源鈔』とその時代(8)

鞆鼓の調律

東京学芸大学准教授

遠藤 徹

今日の伝承では、鞆鼓を各調子の宮や微など特定の音高に調律することはしませんが、古楽書によると鞆鼓を調律する口伝もあつたようです。鎌倉時代の『教訓鈔』には次のような記述が見られます。

「口伝云、鞆鼓・措鼓等、調子の音に張合すべきなり。若し張叶難ければ、乙の音に張合すべし。」

措鼓はすりつづみのことです。現在は用いませんが、かつて使用されていた鼓で、水平に構え指で鼓面をこすって鳴らすものです。この口伝によると、鞆鼓や措鼓等は「調子の音」すなわち各調子の宮に張り合わすべきであり、もし難しければ「乙」すなわち徴に張り合わすべきだといえます。ただし、当時もすでに諸説があつたようで、『教訓鈔』はこの口伝の直後に割り注のかたちで中院(源雅定)と伯行高の問答として次のような話も載せています。

「鞆鼓を時の調子の音に張合すべき由、口伝有り、然らざるなり。只、革と柶(ぼち)との相応する程、張合すべきなり。」

これではどちらが良いのか分からなくなってしまうのですが、あとは自分で考えなさいということでしょうか。

下って『體源鈔』ではこの問題をどのように記しているでしょうか。『體源鈔』六では、『教訓鈔』の記述をそのまま引用した後に、亡父治秋から聞いた豊原家の口伝を次のように記します。

「当家口伝として此の調(しらべ)の事、申され侍りし大方は、古今の最秘事たる由、返す返す口伝あり。」

「時の調子に張合すべき事、叶うべからず。所詮、鞆鼓・大鼓・鉦鼓已下、悉く拍子を以て調(しらべ)と為すべし。拍子はづれなれば、音律の相替るよりも聞きにきし。眼の中に打ち入れ侍るは、樂しにて調子調(しらべ)るなり。」

豊原家の口伝では、打物は拍子(の微妙な伸縮)にひつたりと合わせることこそが肝要で、調子に合わせることはなかったようです。そしてこれは最秘事とされてきました。

これを見ると中世以降は今日と同様に調律することはほとんどなかったかのようにも思えます。ただし、ここで注意したいのは『教訓鈔』では「鞆鼓・措鼓等」と記しているところが、『體源鈔』では「鞆鼓・大鼓・鉦鼓已下」になっていることです。すなわち『體源鈔』の時代には措鼓はもはや使用されなくなっており、考慮に入っておりません。『教訓鈔』所載の鞆鼓の調律の口伝は、あるいは措鼓と共用されていたことと関係があるのかも知れません。

ベトナムの雅楽

フエ宮廷伝統芸術劇場付属
雅楽団を訪ねて

昨年、日本・ベトナム外交関係樹立40周年を記念してベトナムの雅楽が奈良と横浜で公演されました。(前号参照)

ベトナムと日本との関係は古く、雅楽においても奈良時代に抜頭や還城楽、迦陵頻などの林邑楽を伝えたのが林邑(ベトナムの中部)の僧仏哲と、インドのパラモン僧正菩提僊那でした。

ベトナムの雅楽をもっと知りたいと思っていたところ、ベトナムから横浜国立大学への留学生マイマイクオン氏が春休みでベトナムに帰るということを聞き、通訳をお願いしてベトナムフエを訪ねました。

阮王朝の王宮が1945年まであったところがベトナム中部の都市フエ、ところがベト



王宮内の劇場の入り口の門。「閔是門」と彫刻された額が掲げられている。昔はベトナムも日本と同じに漢字を使用していた。



「閔是門」を入ると雅楽の専用の劇場「閔是堂」



閔是堂の中、ここで毎日午前と午後雅楽が演奏されている。



絃楽器、管楽器、打楽器による「大楽」の演奏



宮廷舞踊「花燈の御供」



王宮正門前での演奏

ナム戦争の時、この王宮は激戦地となり建物のほとんどが破壊されたという。現在は復旧が進んでいました。

王宮の中にある雅楽の舞台を持つ「閔是堂」も2000年に新しく再建されていました。

この「閔是堂」の隣りにフエ宮廷伝統芸術劇場付属雅楽団の専用の建物がいくつかあり、その一部屋が团长さんの部屋となっていました。その部屋でチュオン・トアン・ハイ团长より雅楽団の活動内容などのお話を伺いました。

「私は、代々雅楽などの芸能・芸術の演奏家の家に生まれ、祖父母から習い、趣味で続けていて大学でも学び、現在に至ります。2000年から副团长で2007年から团长として活動しています。

現在団員は162名です。その中で演奏・芸能部は、男性76名、女性53名、計129名で、3つのグループに分かれて活動しています。



チュオン・トアン・ハイ团长よりベトナムの雅楽のお話をお聞きました。

演奏は、隣の閔是堂で午前と午後各30分の2回の他、王宮の中で、小楽、大楽の演奏もします。私がいつでも演奏できる曲の数は小楽、大楽とで40曲余り、他にトゥオン(日本であれば能と歌舞伎とを合わせた様な音楽劇)が20曲余りあります。

研究部門は12名、研究部門は雅楽の他、王宮で演じられていた宮廷ダンスや伝統的な儀式の音楽なども研究しています。事務部門は

28名です。

全員で162名おりますので、現在は新規の団員の募集は行っていません。欠員が出たら募集するという事です。全員国家公務員です。

今の団員の方々の中には、1994年から1999年まで大学の雅楽専門のクラスで学んだ20名がいます。他の方は色々ところで学んで団員となりました。

現在はフエ音楽院の中にある音楽専門コースで雅楽を学ぶことが出来ます。

また、編鐘などを復元して儀式音楽などの復元も進めています。詳しくは分かるものを紹介しますのでそちらで聞いてみてください。

ということで儀式音楽の復元に携わってきた副团长のチャン・ダイ・ユン氏にお話を聞きました。

楽器の復元と音楽の復元

天と地と平和への祈りの音楽

「現在、編鐘・編磬などを復元し、これらを打ちながら他の楽器と合わせて演奏する儀式音楽を復元しています。幸いに104歳に

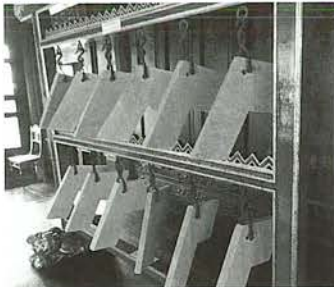


副団長のチャン・ダイ・ユーン氏。国から優秀な演奏家との称号を受けている。東日本大震災の慰霊の曲を作られた。

なるルーヒー・ティー氏は、1945年まで王宮でこれらの音楽を演奏していましたので、その方からいろいろと教わりながら復元を試みています。これは閩是堂などで演奏している音楽とは別のものです。今の雅楽は阮朝の



復元された編鐘



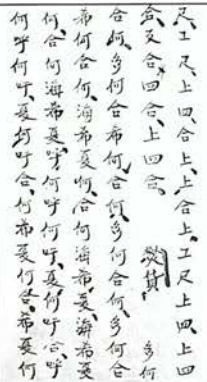
復元された編磬

雅楽で、王様に見える音楽や舞、踊りですがそれとは別に、儀式音楽としての雅楽も王宮では奏されていきましたのでそれを復元しようとするものです。

2002年から3月と4月に本格的に復元して演奏しています。この音楽と舞の舞台は3層になっていて、楽器演奏者を囲むように舞人が並び舞います。この音楽は、天への祈り、地への祈り、平和への祈りとして演奏します。」

李朝時代の譜面

「この左写真の譜面は、李朝時代の譜面です。現在演奏しているのは阮朝時代の雅楽です。今は五線譜を使います。しかし五線譜では伝わらないところもたくさんあるので口伝と五線譜と両方を使って教えています。」



李朝時代(1010年~1225年)のものと思われる楽譜

1999年 フエが大洪水

東日本大震災で慰霊の曲を作る

「1999年、フエは大洪水に襲われました。王宮も1メートル以上の高さまで水につかりました。この大洪水で昔の資料など流されてしまいました。私は日本の東日本大震災の慰霊を祈って曲を作りました。」

阮朝では200名余の演奏者

雅楽の祖先を祭る

「今から70年余り前、阮の王朝のころは、王宮から4〜5キロ離れた場所に練習所があり、その周りに団員の方々は住んでいました。その頃の団員は200名余で演奏活動を行っていました。今も、その練習場所の近くには祖先を祭り、祈る場所があります。是非ご覧になってください。」

教えられた場所に行くと、雅楽の祖先を祭る祭壇や王宮を支えた職人や技術者などの祖先の祭壇が並び、管理人もあり、私達がお参りしていると、一つ一つ祭壇の謂われを詳しく説明してくださいました。



この建物の中に芸術家、音楽家、技術者、職人などの祖先が祭られている。王宮より5kmほどのところにある。



雅楽団についていろいろと説明してくださった団員の皆さん



通訳をいただいたマイ・マイ・クオン氏

二日間に渡り団長さん、副団長さんそして多くの団員の方からいろいろなお話を聞くことが出来ました。ありがとうございました。

『閩是堂』での毎日の演奏や、戦争と洪水により貴重な資料が紛失するなか、古者からのお話を基にして復元作業が続けられていることを知りました。

東日本大震災を受けて副団長のチャン・ダイ・ユーン氏が慰霊の曲を作られたことに心を動かされました。

日本とベトナム、そして近隣諸国との友好がさらに深まることを願ってやみません。

(鈴木治夫)



入口正面に雅楽などの音楽家の祖先が祭られている祭壇がある。この祭壇の謂われを詳しく解説してくださった管理人のチャン・コック・ロイ氏(87歳)

ピリを吹いて60年

鄭在國氏（ピリ奏者）インタビュー

（後編）

2013年9月27日

韓国ソウル国楽院にて

聞き手 中村仁美、鈴木治夫

山本華子（通訳）

鄭在國（チョン・ジェコク）氏は1942年生まれ。1966年より国立国楽院の専任楽士、演奏団楽長、韓国芸術総合学校伝統芸術院院長などを歴任。1972年に史上初めてのピリ独奏会を開催し、1993年には無形文化財保有者に指定されているピリ演奏の第一人者です。現在は国学院元老師範として後進の指導をされています。同席された秦潤鏡（チン・ユンギョン）さんは鄭氏の愛弟子でアジアのダブルリード楽器を研究されている若手研究者です。

（以下前号よりの続き）

*ピリのリードは日本のヨシでも

作れると思いますか？

（鄭）ちょっと違いますね。音は出るかもしれませんが、

（泰）ピリのリードは強度が必要ですが、日本のヨシは弱いので、ビブラートをつける韓国の民俗楽には向いていないと思います。

*倍音も出ますか？

（鄭）伝統音楽では倍音は使いませんのでFが一番高い音ですが、創作音楽では倍音を使うので上のCまで使えます。

こんな奏法もあります。（ト）鄭氏が筆築の「リヤリ」のように、指使いを変えて同じ高さの音を吹く。）



指使いを変えてピリを演奏する鄭氏

*筆築の塩梅と同じですね。

（鄭）筆築とピリは吹き方が似ていますが、

ピリではそこまで頬をふくらませません。

西洋音楽はこうやりますね。（唇を巻き込んでリードをくわえる。）



西洋音楽のリードのくわえ方を演ずる鄭氏

ピリの唇の形は反対にこうです。（唇を突き出してくわえてみせる。）



ピリのリードのくわえ方を演ずる鄭氏

*筆築の唇の形もピリと同じです。

筆築を吹いてみますか？

（鄭）氏が筆築を吹いてみる）



筆築を吹く鄭氏

*今吹いてみて、筆築とピリとの

吹いた時の感じは違いますか？

（鄭）大きな違いはないですが、音色は筆築は閉じるような音、ピリは開くような音が出ますね。

*筆築で雅楽を吹くときは

強弱をつけずに強く吹きますが、

ピリではどうですか？

（鄭）民俗楽にも正楽にも強弱があります。すべてが丸い音でないといけないのが韓国の特徴です。西洋音楽の音はまっすぐですね。あとはビブラートが特徴です。民俗楽と正楽ではビブラートがこのように違います。（ト）ビブラートを吹き分ける）

*日本では唱歌で筆築を習うのですが、

ピリはどうでしょう？

（鄭）クーム（口音）というのがあります。

今は楽譜をメインで使うので、クームのできる人がいなくなりましたが、昔はクームで習いました。ピリの旋律と同じように歌うんです。（ト）クームを歌う。）



ピリの旋律と同じようにクーム（口音）を歌う

*「ナノヌーミ」という言葉で歌われていましたが、これはドレミのような音程を表す言葉ですか？

（鄭）黄鐘（ド）ニナ、太簇（レ）ニヌ、中呂（ファ）ニノ、林鐘（ソ）ニノ、南呂（ラ）ニヌ という音を当てはめて歌います。

（中呂ニノ、林鐘ニノと日本語表記にすると同じですが、韓国の発音では異なります）

*歌うときに、旋律に合わせて

手を上下に動かしていましたね？

(鄭) 旋律の流れを手で指しているんです。

*鄭先生の若い頃よりも今はピリをやる人が

随分増えているようですが、

なぜでしょうか？

(鄭) ピリなど国楽を教える高校は、中央高等学校、国楽高等学校、伝統芸術高等学校などがあり、珍島など地方にも国楽高等学校が増えました。大学では20校に国楽科があります。また個人的に習う人もいます。私自身はピリを150名ほどに教えてきました。

国楽の楽器でもカヤグムやヘグム、テグムは、一般の方でも趣味で演奏する人が沢山いますが、ピリは難しくしんどいので、趣味でやる人は少ないです。

*なぜ国楽を教える大学が

増えたのでしょうか？

(鄭) 植民地時代から朝鮮戦争の頃には、伝統音楽が破壊され途絶えそうになりました。1953年に戦争が終わってから国楽が復興され、後進を育てるために、国家が支援してきたからでしょう。

もちろん一般の人は西洋音楽ばかり聞きますから、ピリのことを知らない人も多いでしょう、それでも昔よりは認知されるようになってきました。

*外国人でもピリを習う人は

いるのでしょうか？

(鄭) わたしは、昔、アメリカ人で韓国にピリを習いに来た人が何人かいましたので、教えました。10年間教えた人もいます。

実は1960年代初めにアメリカに行った

とき、カリフォルニアの UCLA で、マント

ル・フッド教授に会いました。UCLA では

日本の楽師(*東儀季信先生のこと)が雅楽

を教えていましたし、中国、インド音楽の先

生もいました。フッド先生からは韓国音楽を

教えてくださいと言われましたが、私は韓国

でもやらなければいけないことがあり、軍隊

にもいかなければいけなかったため、韓国に

戻ってからまた来ますねと答えましたが、結

局行けませんでした。

*筆簾のリードとピリのリードは製法が違い

ますが、なぜ違ってきたと思いますか？

(秦) ピリの場合、銅線を巻くので、上下が分離されますよね、そうするとピブラートが楽なんです。筆簾は上下に分かれていなくて



ピリと筆簾の違いについて語る秦さん

一つになつていたのでピブラートがつけにくいと思います。

それぞれの国の演奏法によって楽器が変わ

つたのではないのでしょうか。

*日本に伝わってから、リードの作り方が

かわつたのだと思いますか？

(秦) そうだと思います。リードの作り方が

日本化したんじゃないでしょうか？韓国化し

たのがピリのリードでしょう。

*ピリのリードで筆簾を吹くと

どんな音色になるのでしょうか？

(鄭) (ピリのリードに図紙を巻いて、筆簾に差し込んで吹いてみて) ピリよりちょっと柔らかい音色になりますね。

筆簾のリードはセメの下が分厚いので、セ

メの上半分だけ響くんじゃありませんか？ピリ

のリードは銅線の下まで全部響いています。



ピリのリードで筆簾を吹く

*ピリには「帽子」がありませんが、なくて

もリードの口が空きすぎたりしませんか？

(鄭) いいえ。演奏をやめてしばらく置いて

おくと、リードの先は自然にくっついてしま

うので、「帽子」がなくても大丈夫です。

*女性でもピリを吹く方は沢山いますか？

(鄭) 昔、宮中で演奏されていた頃には、ピリを吹く女性はいませんでした。他の楽器の場合は、王様の前では男性が演奏し、王妃の前では女性が演奏することになっていました

が、ピリやテグムは女性が演奏しないので、

王妃の前では目の見えない男性が演奏してい

ました。

今では学校教育が変わったので、女性もピ

リを演奏しますし、差別はありません。

*鄭先生がピリをこれまで吹いてきて

よかつたと思うことは何ですか？

(鄭) 私は幼い時に両親が他界しましたからたいへんな苦勞を沢山しました。決意してこの道一筋で来たのです。辛い時でもピリを吹くと辛くなくなり、すっきりしますし、苦勞した分だけ表現力も増してきました。体の具合が悪い時も、ピリを吹けば元気になる。だからピリは生活、人生のすべてなのです。

*これからの抱負をうかがえますか？

(鄭) 私も年を取り、ほとんどのことはやりました。健康を維持してこれからも長くピリを演奏したいです。

*いろいろな質問にお答えいただきありがとうございます。鄭先生、秦さんの益々のご活躍をお祈りしております。

インタビューを終えて

私は、ピリの口音(クーム)を初めて聞きました。唱歌同様、細かい節回しは歌で伝えられてきたのですね。

目の前で、力強く息の長いピリの音を聞かせてくださった鄭先生は、72歳の今も現役です。若い頃から第一人者としてピリの音楽の世界を広げ、高めてこられた実績だけでなく「ピリは生活・人生のすべて」と言い切れる

生き方に頭が下がりました。(中村仁美)

小野功龍著 『仏教と雅楽』

相愛学園学园长 大谷紀美子

発行 京都、法蔵館 二〇一三年十二月五日

A5判、三三四頁 本体価格 三五〇〇円

ISBN978-4-8318-5693-7

著者による「あとがき」にもあるように、

二〇一三年五月に、小野功龍氏は瑞宝中綬章を受章された。受賞を記念して、長年にわたる氏の研究が一冊にまとめられ出版されたのが本書である。小野氏は相愛大学での教鞭と研究に加え、雅楽の実践家としての活躍は雅楽愛好家のみならず、多くの人々に知られていた。大学の紀要に掲載された論文は、研究者仲間にはよく知られていても、一般には眼に届き難いこともある。一冊の著書として出版されたことは、専門書に特化した本屋や図書館ばかりではなく、誰の眼にも留まる広い読者層の関心を満たす、大変よい機会だと思われる。

内容は、ごくごく平易な文章で綴られた雅楽についての紹介的なものから、学術論文として、古文書が多数引用され、一般読者には少々難解なものもあるが、一貫して雅楽に対する情熱や真摯な研究態度が貫かれている。著書は五つの章に分けられている。

- 一 四天王寺聖霊会舞楽法要
- 「雅楽と法会」「法会舞楽と聖霊会」「仏教儀式と舞楽」

二 法会と舞楽

「仏会の供養舞」「師子小考」「大法会における師子舞」「供養舞楽と法会形式の変遷」「伝供小考―菩薩・迦陵頻・胡蝶の舞をめぐって」「伝供の作法―菩薩・迦陵頻・胡蝶による献供作法をめぐって」「林歌」の歴史の推移」「舞楽法要における『安摩・二之舞』」

三 寺社の伝承芸能

「松尾寺に伝承される『仏舞』」「遠江小國神社に伝承される『十二段舞楽』―太平楽舞を中心として」「廻檀法要における琵琶」「春日大社の社殿神楽」「住吉大社御田植植事における式次第とその歴史の変遷」

四 西本願寺の声明と雅楽

「『天台声明』と『西本願寺声明』の比較研究―四智梵語讀と五眼讀」「西本願寺の法会」

五 雅楽随想

「西本願寺の雅楽」「ラジオ・フランス（パリ）でのレクチャー」「舞楽における左舞と右舞―番舞を中心として」「秦姓の舞」「天王寺舞楽の歴史と天王寺楽所雅亮会の現況」「能生白山神社舞楽と共演して」「遠江の舞楽に思いを寄せて」「西本願寺の時間（ラジオ放送）」「金大中大統領にお会いして」



● 仏教と雅楽 ●

小野功龍

四天王寺聖霊会舞楽大法要の探究を通じて、
仏教と雅楽の秘められた関係が明らかに！

目の一つ『太平楽』と現行舞楽の『太平楽』との比較研究は、遠い昔、中央で行われていた雅楽がさまざま理由で地方各地へ伝播し、そしてそれぞれが独自の変遷を辿ったことを証明しており、大変興味深い。

本書は著者の研究生活の中で執筆された主たる論文を集めたものである。従って、純粹に学術論文として書かれたものや、出版社からの依頼による原稿など、執筆の動機や目的が異なる。純粹に学術論文を読みたい読者は、二章や三章から読み始めるとよいかもしれない。また、法会の中の雅楽について概略的な知識をえたいなら、一章から始めるとよい。読み物として軽いところからという読者には五章の随想から始めることをお勧めする。著者の人となりもわかり、また雅楽や声明に関する予備知識が得られ、主論文への理解の助けとなるのではないだろうか。

天王寺楽所雅亮会 小野功龍氏略歴

1936年生まれ、1965年龍谷大学文学部文学研究科仏教史研究博士課程単位取得満期退学。相愛大学学長、天王寺楽所雅亮会理事長・楽頭、浄土真宗本願寺派仏教音楽儀礼研究所長などを歴任。現在、相愛大学名誉教授。2013年瑞宝中綬章を受章。著書に『日本の古典芸能第二巻 雅楽』（平凡社1970年）ほか、レコード解説など多数。

『仏教と雅楽』より

著者が勤務した相愛大学では、学生の力にキラムの一つにフィールドワークというのがあった。学生たちのための行事ではあったが、引率教員として参加した著者の関心を引くテーマが多く選ばれた。学生たちと一緒に調査を行った小国神社の「十二段舞楽」の演

文字組の崩れ取り替え (総合譜盤渉調)

一昨年より販売をいたしております「総合譜盤渉調」の譜面に、文字組の崩れがあるのを発見いたしました。

調べましたところ、全ての譜面ではありませんが、一部に文字組の崩れがあり、出荷の時期によって2つのパターンがあることから、今回は特別に、文字組の崩れた譜本を購入された方には、交換をさせていただきますので、購入

された販売店にお問い合わせください。

なお、文字組の崩れを見分けるには、(1)のパターンは、71頁萬秋楽破⑨行目筆策の行末に「タ」が欄外にプリントされたもの。

(2)のパターンは、111、112頁の蘇莫者破①から⑥行にかけて、鞆鼓の打つ印の(◀)が欄外にあるものの2種類です。

(1)のパターン 正 誤

(2)のパターン 正 誤

楽中練の譜面紹介 舞楽練習譜

初めて舞楽曲にチャレンジしてみると、戸惑うことばかりです。そこで「練習」「習う」という視点から、舞楽の管方練習用の譜面を編集しました。

舞人が舞台上に登台してくる時から、舞人が退出するまで、順次奏される楽が、頁を繰っていくと見開きで編集してあります。また持ち管の譜だけでなく、『乱序』のように笛だけで奏されている場合には、鳳笙、筆策の譜面にも『乱序』の譜を載せてあります。

この一冊によって、複数の譜面を開く煩わしさがなくなり練習に集中することが出来ます。ただ、雅楽全体に言えることですが、伝承の違いがあることです。必ずしもこの譜が絶対的なものではありません。この譜も『例』と考えていただきたいと思います。

「練習」「習う」場合には、『習われている先生』のご指導を仰いで、この譜はあくまで参考にしてください。

雅楽練習所 楽中練 (らくちゅうれん)
rakuchuren@yahoo.co.jp

前号に掲載できなかった
演奏会など

○王朝の舞楽(神奈川)
2月2日(日)午後2時
平塚市中央公民館大ホール
舞楽 迦陵頻ほか 演奏 多度雅楽会
○2月雅楽公演 舞楽(東京)
2月22日(土) 2時
4500円 3600円 国立劇場大劇場
舞楽 甘州(左舞) 還城楽(右舞)
胡飲酒(左舞) 陪臚(右舞)
出演 宮内庁式部職業部

○高岡市福岡町ひな祭りの雅楽(富山)
3月2日(日)午後1時半
高岡市雅楽の館 入場無料
○和歌山雅楽会 創設60周年記念(和歌山)
3月9日(日)午後2時 前売2000円
和歌山市民会館 小ホール
出演 和歌山雅楽会 特別出演 陵王舞人
上明彦 元宮内庁式部職業部首席楽長

○「さわら雛まつり」で船楽(千葉)
3月15日(土)、16日(日)
午前11時、午後1時半、午後3時
小野川で船楽 演奏 香取雅楽会
○「若き鼓動の芸の息吹」(石川)
3月22日(土) 午後1時 2500円
石川県立音楽堂
舞楽 納曾利 演奏 洋遊会

春く夏までの主な雅楽演奏会など
男山桜まつり 石清水八幡宮(京都)
4月3日(木) 午後2時
舞楽 延喜楽 抜頭 蘭陵王
演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-981-3001
花見の宴 玉前神社境内(千葉)

4月5日(土) 午後2時ごろ
管絃 志越調 春鶯囀 風踏 ほか
舞楽 陵王 演奏 玉前雅楽会
問合せ Tel.0475-42-2771
お花見雅楽演奏会(大阪)
4月6日(日) 午後1時 無料
八幡神社(泉佐野市南中安松)
管絃 平調 越殿楽 ほか
演奏 なんば雅楽会
問合せ Tel.072-466-1076

京都御所春一般公開舞楽(京都)
4月12日(土) 午前10時、11時
舞楽 延喜楽 蘭陵王 演奏 平安雅楽会
高岡市福岡町さわらまつり公演(富山)
4月13日(日) 12時
高岡市福岡さくら会館前桜並木 無料
舞楽 蘭陵王 納曾利ほか 演奏 洋遊会
問合せ Tel.090-826-1434
生田神社 生田祭氏子奉幣祭(兵庫)
4月15日(火) 午前10時
舞楽 柳花苑
演奏 生田雅楽会 舞 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886

梅花祭 厳島神社(広島)
4月15日(火) 午後5時
振鈴 萬歳楽 延喜楽 桃李花 蘇利古
散手 貴徳 陵王 納曾利 長慶子
問合せ Tel.0829-44-2020
名古屋東照宮 大祭舞楽(名古屋)
4月16日(水) 午後5時
舞楽 振鈴 萬歳楽 延喜楽 打球楽 陪臚
陵王 落躑 長慶子 演奏 東照宮雅楽部
問合せ Tel.052-231-4010
梅宮大社 さくら祭り「雅楽祭」(京都)
4月20日(日) 午前11時
舞楽 抜頭 ほか 演奏 平安雅楽会
花盛祭 丹生都比売神社(和歌山)
4月20日(日) 午前11時ごろ

雅楽奉納舞楽 曲目未定
演奏 田島和枝 小林勝幸 中村香奈子 他
問合せ Tel.0736-26-0102
第1回 柿谷貞洋龍笛リサイタル
in 四万十 和と洋の響き(高知)
4月20日(日) 午後2時 無料
ヨンデンプラザ中村 多目的ホール
問合せ sdhkn0712@gmail.com(柿谷貞洋)
雅楽の響き(東京)
4月20日(日) 午後3時 無料
国立新美術館1階ロビー
管絃 越天楽 他 楽器体験あり
演奏 伶楽舎
問合せ Tel.03-5777-8600
聖霊会舞楽大法要 四天王寺(大阪)
4月22日(火) 午後1時
四天王寺六時堂前石舞台
舞楽 振鈴 蘇利古 承和楽 菩薩 獅子
迦陵頻 胡蝶 登天楽 陪臚
附楽 河水楽 回盃楽 十天楽 承和楽
賀王恩 天人楽 延喜楽 長慶子
演奏 天王寺楽所雅亮会
問合せ Tel.06-6771-0066

第10回雅楽道友会「たけの音」(東京)
4月22日(火) 大井町 きゅりあん小ホール
第一部 午後1時30分 無料
管絃 平調 越殿楽 朗詠 嘉辰 陪臚
舞楽 陵王 納曾利
第二部 午後6時30分 2000円
管絃 催馬楽 山城 双調 胡飲酒 破
武徳楽 舞楽 散手 蘇志摩利
問合せ Tel.03-3783-2371
神楽祭 伊勢神宮(三重)
4月28日(月)、29日(火)、30日(水)
午前11時、午後2時(午後は雨の時中止)
舞楽 振鈴 斎庭舞 胡飲酒 長慶子
問合せ Tel.0596-24-1111
舞楽 明治神宮(東京)

4月29日(火) 午前11時
舞楽 振鈴 承和楽 登天楽 長慶子
演奏 楽友会
問合せ Tel.03-3379-5511
田祭り 鶴見神社(神奈川)
4月29日(火) 午後4時
管絃 平調音取 五常楽急
舞楽 還城楽 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-531-0150
大和舞・東遊奉納 春日大社(奈良)
4月29日(火) 午後4時 大和舞 東遊
問合せ Tel.0742-22-7788
舞楽神事 熱田神宮(名古屋)
5月1日(木) 10時30分、午後3時
振鈴 桃李花 登天楽 央宮楽 新鞆
胡蝶 抜頭(左) 還城楽(右) 長慶子
演奏 熱田神宮 桐竹会
問合せ Tel.052-671-4151
和と洋の響き 絃と竹の共鳴へ(愛知)
5月1日(木) 午前11時半 1000円
名古屋市宗次ホール 演奏 柿谷貞洋ほか
問合せ Tel.052-265-1718
聖武祭 東大寺(奈良)
5月2日(金) 午後1時
舞楽 迦陵頻 胡蝶 納曾利
演奏 南都楽所
問合せ Tel.0742-22-5511
神楽祭 西宮神社(兵庫)
5月3日(土) 午前11時
5月5日(月) 午後1時半
5月6日(火) 午前11時
5月10日(土) 午前11時
出演 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886
菖蒲祭奉納 春日大社(奈良)
5月5日(月) 午前10時 りんごの庭 無料
舞楽 貴徳 午後1時
万葉植物園 入園料 大人500円

4月29日(火) 午前11時
舞楽 振鈴 承和楽 登天楽 長慶子
演奏 楽友会
問合せ Tel.03-3379-5511
田祭り 鶴見神社(神奈川)
4月29日(火) 午後4時
管絃 平調音取 五常楽急
舞楽 還城楽 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-531-0150
大和舞・東遊奉納 春日大社(奈良)
4月29日(火) 午後4時 大和舞 東遊
問合せ Tel.0742-22-7788
舞楽神事 熱田神宮(名古屋)
5月1日(木) 10時30分、午後3時
振鈴 桃李花 登天楽 央宮楽 新鞆
胡蝶 抜頭(左) 還城楽(右) 長慶子
演奏 熱田神宮 桐竹会
問合せ Tel.052-671-4151
和と洋の響き 絃と竹の共鳴へ(愛知)
5月1日(木) 午前11時半 1000円
名古屋市宗次ホール 演奏 柿谷貞洋ほか
問合せ Tel.052-265-1718
聖武祭 東大寺(奈良)
5月2日(金) 午後1時
舞楽 迦陵頻 胡蝶 納曾利
演奏 南都楽所
問合せ Tel.0742-22-5511
神楽祭 西宮神社(兵庫)
5月3日(土) 午前11時
5月5日(月) 午後1時半
5月6日(火) 午前11時
5月10日(土) 午前11時
出演 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886
菖蒲祭奉納 春日大社(奈良)
5月5日(月) 午前10時 りんごの庭 無料
舞楽 貴徳 午後1時
万葉植物園 入園料 大人500円

4月29日(火) 午前11時
舞楽 振鈴 承和楽 登天楽 長慶子
演奏 楽友会
問合せ Tel.03-3379-5511
田祭り 鶴見神社(神奈川)
4月29日(火) 午後4時
管絃 平調音取 五常楽急
舞楽 還城楽 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-531-0150
大和舞・東遊奉納 春日大社(奈良)
4月29日(火) 午後4時 大和舞 東遊
問合せ Tel.0742-22-7788
舞楽神事 熱田神宮(名古屋)
5月1日(木) 10時30分、午後3時
振鈴 桃李花 登天楽 央宮楽 新鞆
胡蝶 抜頭(左) 還城楽(右) 長慶子
演奏 熱田神宮 桐竹会
問合せ Tel.052-671-4151
和と洋の響き 絃と竹の共鳴へ(愛知)
5月1日(木) 午前11時半 1000円
名古屋市宗次ホール 演奏 柿谷貞洋ほか
問合せ Tel.052-265-1718
聖武祭 東大寺(奈良)
5月2日(金) 午後1時
舞楽 迦陵頻 胡蝶 納曾利
演奏 南都楽所
問合せ Tel.0742-22-5511
神楽祭 西宮神社(兵庫)
5月3日(土) 午前11時
5月5日(月) 午後1時半
5月6日(火) 午前11時
5月10日(土) 午前11時
出演 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886
菖蒲祭奉納 春日大社(奈良)
5月5日(月) 午前10時 りんごの庭 無料
舞楽 貴徳 午後1時
万葉植物園 入園料 大人500円

4月29日(火) 午前11時
舞楽 振鈴 承和楽 登天楽 長慶子
演奏 楽友会
問合せ Tel.03-3379-5511
田祭り 鶴見神社(神奈川)
4月29日(火) 午後4時
管絃 平調音取 五常楽急
舞楽 還城楽 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-531-0150
大和舞・東遊奉納 春日大社(奈良)
4月29日(火) 午後4時 大和舞 東遊
問合せ Tel.0742-22-7788
舞楽神事 熱田神宮(名古屋)
5月1日(木) 10時30分、午後3時
振鈴 桃李花 登天楽 央宮楽 新鞆
胡蝶 抜頭(左) 還城楽(右) 長慶子
演奏 熱田神宮 桐竹会
問合せ Tel.052-671-4151
和と洋の響き 絃と竹の共鳴へ(愛知)
5月1日(木) 午前11時半 1000円
名古屋市宗次ホール 演奏 柿谷貞洋ほか
問合せ Tel.052-265-1718
聖武祭 東大寺(奈良)
5月2日(金) 午後1時
舞楽 迦陵頻 胡蝶 納曾利
演奏 南都楽所
問合せ Tel.0742-22-5511
神楽祭 西宮神社(兵庫)
5月3日(土) 午前11時
5月5日(月) 午後1時半
5月6日(火) 午前11時
5月10日(土) 午前11時
出演 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886
菖蒲祭奉納 春日大社(奈良)
5月5日(月) 午前10時 りんごの庭 無料
舞楽 貴徳 午後1時
万葉植物園 入園料 大人500円

管絃 志越調音取 迦陵頻
舞楽 振鈴 迦陵頻 胡蝶 陪臚 胡飲酒
長慶子 演奏 南都楽所
問合せ Tel.0742-22-7788

菅浦祭 鶴岡八幡宮(神奈川県)

5月5日(月)午後2時
舞楽 曲目未定 演奏 東京楽所
問合せ Tel.0467-22-0315

伶楽舎雅楽コンサートno.28(東京)

5月6日(火祝)午後2時 四谷区民ホール
前売・予約2500円 当日3000円
光明伽陀 極楽声歌 五聖樂急 万歳樂
催馬樂 極楽は 十天樂
舞楽 迦陵頻 菩薩 演奏 伶楽舎
問合せ Tel.03-3226-9755

卯之葉神事 住吉大社(大阪)

5月8日(木)午後2時より石舞台にて
舞楽 振鈴 打毬樂 延喜樂 甘州 長慶子
演奏 天王寺楽所雅楽会
問合せ Tel.06-6672-0753

函館護国神社(北海道)

5月11日(日)午前10時 祭典にて
舞楽 胡飲酒 ほか 演奏 函館楽所
問合せ Tel.0138-41-5467

御陰祭 下鴨神社(京都)

5月12日(月)午後3時
切芝神事 東遊 演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-781-0010

葵祭 上賀茂神社 下鴨神社(京都)

5月15日(木)
下鴨神社 東遊 午前11時40分
上賀茂神社 東遊 午後3時30分
演奏 平安雅楽会

春の舞楽会 六華苑(三重県)

5月17日(土)午前10時、午後1時
18日(日)午前10時、午後1時
舞楽 振鈴三節 萬歳樂 地久 春庭花

胡蝶 陵王 納曾利 散手 陪臚 長慶子
主催 多度雅楽会
問合せ Tel.0594-48-3484

福岡県筑紫野市文化会館(福岡)

5月18日(日)午後1時半 2000円
筑紫野市文化会館
管絃 平調音取 越天樂 陪臚
舞楽 迦陵頻 仁和樂 蘭陵王
演奏 筑紫雅楽会
問合せ Tel.092-925-4321

天理教音楽研究会雅楽部演奏会(奈良)

5月25日(日)午後6時半
三千院 御禮法講(京都)
5月30日(金)
声明 付楽 演奏 平安雅楽会

横浜雅楽会創設30周年記念公演(神奈川県)

チケットプレゼント有り
5月30日(金)午後6時半
はまぎんホール ヴィアマール
管絃 平調音取 五常樂急 林歌 国風歌舞
東遊 舞楽 狛杵 還城樂
演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-531-0150

札幌雅楽同好会(北海道)

5月31日(土)午後3時 1000円
札幌コンサートホールキタラ
管絃 春鶯囀 踏・入破 胡飲酒 破
舞楽 陵王 豊樂舞 楽器体験コーナー有
演奏 札幌雅楽同好会
問合せ Tel.011-711-4633

6月雅楽公演 国立劇場(東京)

チケットプレゼント有り
6月7日(土)11時 国立劇場
一般2500円、学生1800円
雅楽についてのお話/雅楽器紹介

休憩時間に楽器体験あり。
管絃 志越調 迦陵頻急 双調 鳥急
舞楽 還城樂 出演 伶楽舎
予約4月11日 窓口販売4月12日より
問合せ Tel.0570-07-9900

漏刻祭 近江神宮(滋賀)

6月10日(火)午前11時
舞楽 曲目未定 出演 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886

博雅会雅楽関西公演vol.4(兵庫)

チケットプレゼント有り
6月10日(火)午後7時 3000円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院ホール
管絃 大曲 春鶯囀 志具
歌謡 朗詠 一聲(志越宮)
舞楽 納曾利(右舞)
ゲスト 豊英秋 元宮内庁楽部首席楽長
演奏 博雅会
問合せ Tel.080-2415-2347

森町文化会館開館20周年記念(静岡)

6月14日(土)午後2時 一般3500円
森町文化会館大ホール
遠江森町舞楽 萬歳樂 ほか
青葉まつり 高野山(和歌山)
6月14日(土)丹生都比売神社
6月15日(日)午前10時
高野山金剛峯寺大広間 舞楽 曲目未定
演奏 神奈川雅楽部
問合せ Tel.045-931-1714

慶州世界ヒリフェスティバル(韓国)

6月21日(土)午後7時半
慶州 芸術の殿堂 出演 鈴木治夫 桃沢洋
萌雅会雅楽公演vol.3(石川)
6月29日(日)午後2時
1500円(当日2000円)
石川県立美術館ホール

管絃 平調 鶏徳 林歌 歌謡 朗詠 嘉辰
(平調宮) 舞楽 左舞 萬歳樂
ゲスト 岩佐堅志 太田豊(萬歳樂舞人)
演奏 萌雅会
問合せ Tel.090-2835-2888

十二音会 第36回公演(東京)

7月5日(土)午後6時30分
紀尾井ホール(大ホール)
指定席5000円、自由席4000円
河水久澄(伊勢の遷宮に寄せた神樂舞
作曲 久邇邦昭 作舞 豊英秋)
管絃 催馬樂 伊勢ノ海ほか
舞楽 白浜 ほか
問合せ Tel.050-3522-2310

大阪楽所第32回記念雅楽演奏会(大阪)

チケットプレゼント有り
7月6日(日)
昼の部午後2時 夜の部午後6時開演
3000円(チケットぴあ・劇場窓口)
国立文楽劇場(大阪)
第一部 管絃 太食調音取 傾歪樂急
還城樂 長慶子 第二部 舞楽 振鈴一節
二節 五常樂破・急 仁和樂
問合せ Tel.06-6781-8260

星祭り 師岡熊野神社(神奈川県)

7月6日(日)午後7時
管絃 盤渉調音取 越天樂 国風歌舞 東遊
舞楽 還城樂 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-531-0150

近江神宮燃水祭(滋賀)

7月7日(月)午前11時
舞楽 曲目未定 出演 女人舞楽原笙会
問合せ Tel.0797-23-1886

東京楽所 第5回定期公演(東京)

チケットプレゼント有り
7月12日(土)午後5時
S席5000円 A席4000円
七夕の雅楽

東京オペラシティコンサートホール
管絃 志越調調子 胡飲酒序 同破
新羅陵王急 舞楽 蘭陵王 納曾利
問合せ Tel.03-3560-3010

雅楽と国際文化交流(東京)
7月21日(月・祝) 午後3時 5000円
紀尾井ホール(小ホール)

第一部 講演「ことばは音楽とどう関わるか」
牧野成一米国プリンストン大学名誉教授

第二部 管絃と舞楽 演奏 十二音会

主催 公益社団法人北之台雅楽アンサンブル
問合せ Tel.0470-62-6355

文月会第18回講習会(東京)
7月21日(月) 赤坂区民センター

雅楽の新たな魅力を探る(東京)
7月26日(土) 2時 国立劇場小劇場
敦煌琵琶譜による音楽 ほか
出演 伶楽舎

★読者チケットプレゼント★
☆横浜雅楽会 5月30日 はまぎんホール(神奈川) 3名様ご招待 5月16日必着招待券を送付
☆国立劇場(東京) 6月7日 2名様ご招待 5月24日必着 招待券を送付
☆博雅会公演 6月10日 兵庫県立芸術文化センター神戸女学院ホール 5名様ご招待 5月27日必着 招待券を送付
☆大阪楽所 7月6日 国立文楽劇場(大阪) 昼・夜各5名様ご招待
6月22日必着 招待券を送付

☆東京楽所 7月12日 東京オペラシティ 5名様ご招待 6月28日必着 招待券を送付
応募資格・「雅楽だより」定期購読者
応募方法・はがきに希望の演奏会、住所、氏名、電話番号など必要事項を記入。
応募先・〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6 鈴木方
「雅楽だより」編集部

テレビ・新刊など
○鶴殿・上牧のヨシ原焼きが行われた
昨年(日)ヨシ原焼きが大量の人の手により無事に終わった。



2月23日(日)朝9時頃の様子
写真提供 鶴殿ヨシ原研究所

○新名神高速道路の第3回検討会開催
昨年12月12日(木)午後2時30分より高槻市市民会館で開催された。ヨシ原の地下水などの調査報告が行われた。今後、筆管用ヨシと他のヨシとのDNAの鑑定をすすめるとしていく。現段階では筆管用ヨシの保全の見通しは立っていない。

○日本美術に聴く音楽 日本経済新聞
1月23日 阿弥陀聖衆来迎図
24日 源氏物語絵巻「宿木(三)」
27日 依屋宗達「舞楽図屏風」
東京芸術大学准教授 吉田亮 音楽を奏でる日本の絵画を、時代を追って紹介

○『和』の管楽器・打楽器の世界
『パイパーズ』誌で連載していたものをまとめて発行された。
B5判
200ページ 2300円
問合せ Tel.03-5902-7281



○安倍季昌著『雅楽回想』
楽人としての演奏記録と安倍家の蔵書を中心に近世から現代までを楽人の目で綴ったもの。昨年12月に発行された。
(株)カモミール社 B5判450ページ
本体価格4500円
問合せ Tel.03-5902-7281



○渡辺信一郎著『中国古代の楽制と国家』
日本雅楽の源流
渡辺信一郎
中国の歴史、さらにはその日本雅楽への影響を明らかにする。
文理閣 A5判418ページ
定価7350円



○『雅楽はすごい!』日本雅楽解説 其の壹
野原耕二著
A5版
16ページ
500円
其の貳を7月発行予定



○強化プラスチック協会誌「強化プラスチック」に塚本増能氏が投稿
「熱硬化性FRPで雅楽器「笙」の製作他」が掲載された。この冊子をご希望の方は、Tel.0743-76-6323(塚本)まで

○NHK Eテレ 坂本龍一 音楽の学校
『日本の伝統音楽編』第二回 雅楽
2月13日(木)午後11時25分
出演 坂本龍一 小島美子 芝祐靖ほか
演奏 伶楽舎

芝祐靖先生へ質問を
芝先生へ笛に関するご質問をメールかFaxでお寄せください。お待ちしております。

寄付のお願い

ご協力頂ける方、寄付をお願い致します。お振込は、購読料の口座へ、通信欄に「寄付」とご記入ください。

「雅楽だより」

購読・継続 申し込み方法
購読料一年(4回発行)千五百円。(送料込)
郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、
[口座番号] 00140-5-614032
[加入者名] 雅楽協議会

までお振込みください。ご記入頂いた住所に「雅楽だより」を送らせて頂きます。数年分まとめての振込みも受け付けています。

「雅楽だより」も10年目となりました。皆様のおかげです。ありがとうございます。今後ともよろしく願っています。

「雅楽だより」第37号
2014(平成26)年4月1日
発行 雅楽協議会
編集 雅楽協議会「雅楽だより」編集担当
連絡先 〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)
TEL.042-4511-8898
FAX.042-4511-8897
メール gsgakudayori@yahoo.co.jp
http://www.gsgaku-kyougikai.com/

印刷 秀英堂紙工印刷株式会社
雅楽の楽器・譜面 ほか
(株) 武蔵野楽器
〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6
電話 03-5902-7281
Fax 03-5902-7282

「雅楽だより」第37号
2014(平成26)年4月1日
発行 雅楽協議会
編集 雅楽協議会「雅楽だより」編集担当
連絡先 〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)
TEL.042-4511-8898
FAX.042-4511-8897
メール gsgakudayori@yahoo.co.jp
http://www.gsgaku-kyougikai.com/